

平成29年度 地方創生対策特別委員会 県外視察の概要

1 参加委員

岡田 理絵(委員長)、長池 文武(副委員長)、岸本 泰治、井川 龍二
岩丸 正史、重清 佳之、元木 章生、黒崎 章、山田 豊

2 視察日程及び視察箇所

視察日程	視 察 箇 所
8月22日(火)	児島商工会議所(岡山県倉敷市)
	岡山空港(岡山県岡山市)
8月23日(水)	村上水軍博物館(愛媛県今治市)
	今治市役所(愛媛県今治市)
8月24日(木)	マイントピア別子 (愛媛県新居浜市)

3 調査目的及び視察概要

(1) 児島商工会議所

(調査目的)

岡山県児島地区は、明治時代から「繊維の町」として知られているが、ジーンズに関しては1960年代に国内で最初にジーンズ生産を手掛けたことでも有名である。

「児島ジーンズストリート」は、かつて児島で最も栄えた商店街の中にあり、地元メーカーや児島商工会議所等による協議会が、児島にある商店街の空き店舗への誘致活動を行っている。

国産ジーンズ発祥の地「児島」のPRと、商店街のにぎわい再生を目指し、地場ジーンズメーカーの販売店を商店街へ集積させることを目的とした「児島ジーンズストリート」構想計画を進めていることなどから、地域産業の育成と商店街のにぎわい再生による誘客効果と今後の取組について調査を行う。

(視察概要)

児島でのジーンズの歴史やジーンズストリート構想の取組やにぎわい再生による誘客効果などについて説明を受けた後、児島ジーンズストリートを視察しました。



(2) 岡山空港

(調査目的)

岡山空港は、国内線は東京・札幌・沖縄の3路線、国際線はソウル・上海・香港・台北の4路線と、多くのチャーター便・臨時便を運航している。

平成28年度は、香港線及び台北線の新規就航により、利用者が大幅に増加し、211,211人（対前年度比146.9パーセント）となっている。

香港線は、本格的なインバウンド路線として、昨年3月に就航し、7月に毎日運航から週2便に減便となったが、その後は高い搭乗率で推移している。

また、台北線では中四国初のLCC（格安航空会社）によるインバウンド路線として、昨年7月に就航して以来、利用者数は好調に推移し、搭乗率80パーセント、利用者数31,952人であったことなどから、国際線に係る空港施設整備及び国際線就航によるインバウンドへの取組について調査を行う。

(視察概要)

岡山空港の利用実績や岡山県のインバウンド拡大に向けた取組などについて説明を受けた後、国際線施設を見学しました。



(3) 村上水軍博物館

(調査目的)

「日本最大の海賊の本拠地『芸予諸島』－よみがえる村上海賊の記憶－」として、愛媛県今治市と広島県尾道市の申請により、平成28年4月に日本遺産として認定された。

村上海賊が築いた海城群、海賊達が崇めた寺社、伝統を受け継ぐ海の文化は、現在もこの地域に色濃く残っていることなどから、日本遺産「よみがえる村上海賊の記憶」について調査を行う。

(視察概要)

日本遺産「よみがえる村上海賊の記憶」が認定されるまでの経緯や村上博物館を中心とした観光誘客について説明を受けた後、施設見学を行いました。



(4) 今治市役所

(調査目的)

「今治タオルプロジェクト」として、ブランドマーク・ロゴマークの作成・導入、新商品開発、世界一の産地づくり、メディアプロモーション及び海外展示会への出展に取り組む。産地ブランドの確立として、個別メーカーブランドの創出や、産地ブランドの品質管理・維持の徹底など、世界に通用する今治タオル産地のイメージを確立させたことから、「今治タオルプロジェクト」の取組による地域産業の育成について調査を行う。

(視察概要)

「今治タオルプロジェクト」に取り組むまでの経緯、これまでの取組状況及び今治タオルの今後について説明を受けました。



(5) マイントピア別子

(調査目的)

別子銅山は、江戸時代・元禄4年の開抗に始まり、昭和48年の閉山に至るまでの283年間の歴史を有し、総産出量は約65万トン、世界有数の産出量を誇った時期もあった、日本三大銅山の一つである。新居浜市内には、市の発展の礎となった別子銅山の産業遺跡が数多く残っている。

これらの産業遺跡を活用し、新居浜市全体をフィールドとする「生きた博物館都市」を目指したまちづくりを進めていることから、産業遺跡を活用した観光振興の取組について調査を行う。

(視察概要)

産業遺産を活用した観光振興やマイントピア別子の取組について説明を受けた後、東平地区を視察しました。

